

ぎょぎょう 漁業で暮らしを立てる人たち（徳之島）

南の島「徳之島」の漁業にたずさわる人たちは、どのようにして取った魚を売って、暮らしを立てているのでしょうか。そのしくみを調べて来ました。

まず漁師さんたちは魚釣りに行く前に、釣り道具の点検をしたり、えさの準備や魚を釣った時に入れる大きな「クーラーボックス」に氷を入れたりして、漁船で魚釣りに出かけます。そして、釣った魚を売りに行きます。どこに行くのでしょうか。

そのためのしくみが「とくのしま漁業協同組合」というところに行っていました。そのしくみは「セリ」と言い、魚は「入札」で買われていきます。

「セリ」に来る人は、魚屋さん、魚料理を出すホテル・食堂などです。「セリ」に参加するには漁業協同組合に登録をし、会費を納めて会員になります。そして、「セリ」をする前に魚を買うためのお金を漁業協同組合に納めます。納めたお金の分だけ、魚を買うことができます。

それでは「セリ（入札）」のしくみと様子を紹介します。

とくのしま漁業協同組合の「セリ」のしくみと様子

- 1 漁師さんは釣った魚を「とくのしま漁業協同組合」の「セリ場」に、車で運んで行きます。そして、漁業協同組合の人に重さを量ってもらいます。

【青ぶだいの重さを量っているところ】



【伊勢エビの重さを量っているところ】



- 2 重さを量ったら、漁業協同組合の人は、「セリ」で買う人が買いやすいように並べます。

【重さを量った魚を運ぶところ】



【重さを図った魚を並べるところ】



3 セリにはいろいろな魚が売られます。中には「青ぶだい」など、南国でしか取れない魚も売られます。漁業協同組合の人が魚に白い紙で「セリ番号・魚名・重さ」を表示します。

【89番、まんがら、3.4Kg】



【30番、白ほた(青鯛)、3.9Kg】



【67番、いなご(白松)、4.3Kg】



【64番、ちびき(赤松)、4.3Kg】



【左⇒4番、ねばり、13.0Kg、右⇒しーら】



【青ぶだい】



【84番、くぶしみ、4.6Kg】



【たこ、それぞれ 1.5Kg、2.0Kg、2.5Kg】



4 「セリ」の前に、全員で「第1ラジオ体操」の曲に合わせて、体操をしています。

【全員で第1ラジオ体操】



【全員で第1ラジオ体操】



5 いよいよ「セリ」が始まります。

(1) はじめに、買う人は「セリ」に使う「札」^{ふだ}を取ります。



(2) 買う人はどの魚を買うかを見て行きます。



(3) 漁業協同組合の放送係が売る魚の「セリ番号」をマイクで番号順に呼び出し、もう一人の係が呼び出された魚に三脚^{さんきやく}（マーカー）を立て、買う人に買われて行きます。

【マイクで放送する漁業組合の係】



【魚に三脚を立て、買われた魚に買われた印をする係】



- (4) 漁業協同組合長さんが見守る中、買う人は「札」に、自分の屋号（登録した名前）と金額を書き、入札口に「札」を入れます。

【セリを見守る漁業協同組合長さん】



【屋号→三、金額370⇒3700円】



【魚の鮮度や肉つきなどを確かめて買う人】



【屋号→一ともの組合せ、金額650⇒6500円】



【買いたい魚に屋号と金額を書いて買う人】



【札を入札口に入れて買う人】



- (5) 入札され、買われた魚は、入札のじゃまにならないように、一つにまとめておきます。



